

「院政」とは何か

定員・回数：60人・3回
 時間・場所：午後2:00～3:30・生涯学習センター研修室
 費用：受講料600円
 講師：皇學館大学 文学部 教授 岡野友彦

天皇陛下が「上皇」となられる日が近づく中で、「院政」の復活を懸念する声すら聞こえます。しかし「院政」は、決して皇位を退いた前天皇が、その後も影響力を保ち続けたなどといった単純な政治的事件ではありません。中世ならではの統治システムである「院政」とは何だったか。その問題を「荘園制」という側面から探ります。

1/13(日)	<p>荘園制とはいかなるものか</p> <p>「荘園制」というと「私的大土地所有」と思っている人が多いと思いますが、これは実は明白な間違いです。中世的国土領有システムとしての「荘園制」について、わかりやすく説明することから、「院政」の本質に迫ります。</p>
2/10(日)	<p>院政はなぜ始まったか</p> <p>後三条天皇の出した荘園整理令で荘園は終わったと勘違いしている人がいます。しかし本格的な「荘園制」は、この延久の荘園整理令(1069)に始まりました。「荘園制」と「院政」の始まりには、深い関係があったのです。</p>
3/10(日)	<p>院政はなぜ続いたか</p> <p>「院政」は平氏政権や鎌倉幕府・室町幕府が成立しても終わることなく、若干の寸断を挟みつつ、応仁の乱勃発後の文明2年(1470)まで続きました。中世という時代を「院領荘園」の伝領という側面から眺めてみましょう。</p>